

1 令和6年度の成果と課題

(1) 成果

- ・低学年の段階から継続的な指導を行うことで、表現学習や鑑賞学習の素地を身に付けさせた。
- ・ICT 機器を活用することで、視覚的に分かりやすく指導することができたり、児童が意欲的に取り組むことができたりした。

(2) 課題

- ・児童は意欲的に取り組んでいるが、曲想を生かした表現にまで至らないことが多く、演奏の完成度を高める必要がある。また、楽器演奏の習熟の差や、楽典知識の定着の差が大きい。

2 授業改善のポイント及び改善策

1 基礎的・基本的な楽器の奏法や発声の仕方を身に付けさせる。正確に読譜する力を定着させる。

- (1) リコーダーや鍵盤ハーモニカの導入学習、タンギング、息の入れ方、発声の指導を丁寧におこない、それらを継続して指導していく。表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、豊かな音楽表現につなげられるようにする。低学年の段階から継続的に指導をおこない、定期的に復習をすることで、積み重ねの学習を大切にしていく。
- (2) 音符やリズム、階名、音楽記号等の楽典知識を正確に理解できるよう、常時活動等を通して、読譜の練習を1年を通して継続する。
- (3) 個別学習の時間の中で、児童同士の教え合いの場を積極的につくる。また、児童自身が、自分の演奏を客観的に振り返る機会を設ける。

2 拍感やリズム感を身に付け、表現活動の充実を目指す。

- (1) 手拍子、身体表現、発声、楽器等によるリズム活動（リズムあそび）を通し、楽しみながら、拍感・リズム感を育成する。
- (2) 教師の演奏を模倣する学習を多く取り入れ、拍の流れを正確に感じ取ることができるようにする。

3 音楽を味わって聴き、感じたことや気付いたことを表現するための語彙を増やす取り組みを行う。

- (1) 鑑賞学習では、形容詞表を用いて、自分の思いを自分の言葉で表現できることを目指す。書く活動を定期的に取り入れ、低学年の段階から「書くこと」に慣れさせる。
- (2) 共通事項を軸にして、聴く視点を明確に示すことで、楽曲の音楽的特徴と関わらせて鑑賞する力を身に付けさせる。自分の思いを言語化することが難しい場合には、いくつか例を提示し、自分の考えに近いものを選ばせるなど、すべての児童がねらいをもって鑑賞学習に取り組めるようにする。

4 学習成果を発表する場を設けることで、児童の達成感や学習意欲を向上させる。

- (1) 音楽朝会を実施し、日頃の学習成果を発表する機会を設ける。一つの作品をつくりあげる喜びや難しさ、友達と協働して演奏する楽しさを感じ、その後の学習への動機付けとなるよう指導する。また、児童同士が互いの演奏や表現のよさを認め合えるように、学級の雰囲気づくりを大切にする。